

市民研通信59

2020年
10月
通巻
205号



市民研の『「5G」ここが問題!』のパンフレットは2,000冊に達する勢いで売れている。「熱とくらし かるた」も好評発売中。ドイツの『市民科学のための実践ガイド』は英語版に次いで市民研が日本語版を作成。代表・上田が共著で書いた岩波新書『実践 自分で調べる技術』発刊を機に(10/20)、おすすめ記事論文サイトを公開する。



市民研
NPO法人 市民科学研究室

Information

年内にスタートする新たな講座も含めて 市民科学講座の形が新しくなります

- ・会場はA～Dは事務所(定員10名)とオンラインを併用しますが、それ以外はオンラインのみとなります。(Eコースは外部の特別な施設を借りて実施します。)
- ・参加費はEコースと「著者に尋ねる」を除いて、すべてにつき、会員(そして会員の同伴者で新参者)は半額、そして25歳以下の人は会員非会員を問わず無料となります。
- ・新規である、入門講座、特別講座(3つ)、相談会はすべて2020年内に第1回目スタートします。

種別	講師	参加費	実施日・時間
市民科学講座 A コース	これまで付き合いない科学者、専門家による講演	1000 円	金夜、土、日 2 時間
市民科学講座 B コース	市民研と何らかの関わりのある方を講師にしての講座	1000 円	金夜、土、日 2 時間
市民科学講座 C コース	市民研の研究会メンバーによる自前研究発表	1000 円	金夜、土、日 2 時間
市民科学講座 D コース	市民研スタッフ・会員ならびにその友人を話題提供者にしての談話会	500 円	金夜、土、日 2 時間
市民科学講座 E コース	大規模もしくは特殊な設備を用いるイベント 例:調理室を使う「子ども料理科学教室」	随時決定	金夜、土、日 2～3 時間
市民科学入門講座	(複数の)研究会メンバーや会員からの入門的な話題提供	なし	毎週月曜夜 1 時間
市民科学特別講座 「著者に尋ねる」	著者を招いての意見交換	一律 500 円	月 1 回随時 平日夜 1 時間
市民科学特別講座 「TV 番組を語り合う」	指定された TV 科学番組を予め観た人たちによる意見交換	なし(非会員は要事前メッセージ)	第一第三水曜夜 1 時間
市民科学特別講座 「科学記事を論じ合う」	「市民研サーチライト」のなかの指定された記事論文を読んだ意見交換	なし(非会員は要事前メッセージ)	第二第四水曜夜 1 時間
市民科学相談会 (ブレインストーミング)	講座ではないが、特定の問題や持ち込まれた相談事項を少人数で話し合う場	なし	月 1 回随時 平日夜 1 時間

Event

オンライン市民科学講座

2020年10月9日(金)▶▶▶2021年9月10日(金)

連続講座「日本の市民科学者—その系譜を描く」(全12回)

市民科学研究室の代表の上田が講師を務める講座がスタートしました。
市民・民衆・住民の命と尊厳と権利を守るために、ある時は「科学」と対峙し、ある時は自ら「科学」を営んで、闘ってきた先達たちの歩みを取り上げます。時代状況のなかで、彼らは何を目指し、何を切り拓いてきたか。私たちは何を受け継いでいるか(受け継がないでいるか)、受け継ぐべきか。これらの市民科学者らが関わった様々な社会事象に応じて10の切り口を設け、その活動の歴史的意義をつなげて考察します。参加者とともに議論しながら、これまで誰も描いたことのない、日本の市民科学者の系譜を、一緒に描いてみます。

第2回 11・13 反核・反原発と日本の科学者—高木仁三郎を主にして

第3回 12・11 公害と闘った科学者たち—宇井純、田尻宗昭を主にして

第4回 1・8 水俣病と医学・科学—原田正純、西村肇を主にして

第5回 2・12 薬害と統計学・疫学—増山元三郎、高橋暁正を主にして

第6回 3・12 町医者と商品テスト—松田道雄と花森安治

第7回 4・9 洋学・翻訳・啓蒙—幕末と維新の知識人たち

第8回 ～第12回 のテーマは市民研ウェブサイトをご覧ください。

【日時・定員・参加費用】

・どの回も第二金曜日の夜です。19時00分に開始、21時00分終了です。

・質疑応答をしっかりと行いたいのでオンラインでの定員は20名とします。また会場(市民研事務所)に直接赴いての参加者は10名までといたします。

・事前に市民研ウェブサイトから参加費500円をオンラインで送金していただく必要があります。

【申し込み方法】

市民研ホームページから行ってください。電話やメールでの申し込みは受け付けておりません。

Information

出版物の紹介

岩波新書『実践 自分で調べる技術』が出版されました

共著者の一人である上田は、市民科学研究室での20年の経験で得た、調査のための様々なノウハウを、誰もが使える形で総まとめをしました。ぜひ書店でお買い求めください。



Event

オンライン市民科学入門講座

11月2日,9日,16日(いずれも月曜日)

エピジェネティクス、子どもと科学、「味の素」……

様々な問題に関心を持ち、様々な活動に関わっておられる市民科学研究室の会員の皆さん、そしてその方々のご友人を講師にして、それぞれの方に得意のテーマで「市民科学」を語っていただけないだろうか—そのような意図からこの毎週月曜日1時間のオンライン講座を始めることになりました。どなたでもご参加できます。30分ほどの話題提供の後、30分ほど皆で議論します。奮ってご参加ください。

●第1回(11月2日(月)19時～20時)

エピジェネティクスとは何か、なぜそれは重要か

講師: 渋谷徹さん(市民科学研究室会員)

▶生物学、毒性学、臨床医学、さらに社会学をも変革させる可能性を秘めている、この重要な概念を解説します。

参考サイト: 環境エピゲノミクス研究会(EEG) <http://eegs.web.fc2.com/>

●第2回(11月9日(月)19時～20時)

子どもと科学のおもしろさを遊ぶ

講師: 土屋至さん(市民科学研究室会員)

▶「おもしろ科学たんけん工房」の「子どもを理科好きにする」ということの意味と方法を紹介します。

参考サイト: おもしろ科学探検工房 <https://tankenkobo.com/wp/>

●第3回(11月16日(月)19時～20時)

「味の素」と近代日本の食文化

講師: 瀬野豪志さん(市民科学研究室理事)

▶「それを使う人」と「使わない人」についての科学技術史、という新しい切り口で考えます。

◇主催: NPO法人市民科学研究室
◇形式: zoomによるオンライン形式
◇定員: 毎回25名以内(先着順)
◇参加費: 会員ならびに非会員とも無料
◇お申し込みは市民研ウェブサイトの該当ページより



市民研へのご入会／ご寄付のご案内

市民研の活動は会員となってくださる方々の会費やご寄付によって支えられています。

市民研の活動にご賛同いただける方、支援をしていただける方には、ご入会やご寄付をお願いいたします。

ご送金・ご入会・ご寄付につきましては以下のやり方をお願いしています。

●100円単位の送金 100円単位のカンパや少額の送金(郵送費など)にご利用ください。

市民科学研究室の新しいウェブサイトのメインメニューに「ご支援のお願い」があります。そこから「市民研オンラインショップ」のサイトにつながります。そのなかに、「一口100円ご送金」のカートがありますので、ご利用ください。

●会員登録 年会費を送金して次のいずれかの会員になることができます。

★レイチェル会員……………年会費 10,000円(総会における議決権あり)

★ダーウィン会員……………年会費 3,000円

会員になると、以下のサービスを受けることができます。

1. 隔月の機関誌『市民研通信』の送付(会員は全文アクセス可、非会員には有料の記事論文あり)
2. 市民研メーリングリストへの全会員の登録
3. 市民研の各種研究会への参加(オンラインでの参加を含む)
4. 市民研主催のイベントで参加費が半額になりかつ同伴者割引も
5. 市民研が刊行した出版物の寄贈(レイチェル会員のみ)
6. 会員間講師派遣制度の利用(この内容についてはウェブサイトの該当ページを参照のこと)
7. 市民研主催の市民科学講座・各種イベント・研究会での配布資料、市民研の代表や理事メンバーらが講師として招かれた講演などの配布資料のうち、公開可能なものから精選して送付
8. 市民科学研究室所蔵の書籍・文献資料や映像資料の借り出し(期限1ヶ月)

●ご寄付 一口1,000円から受け付けております。

ご送金の方法は以下のいずれかでお願い致します。

郵便振替……………口座加入者名: 市民科学 振替口座番号: 00160-4-608503

オンライン決済……………市民研ウェブサイトの「参加費前払い 出版物・販売物」から

NPO法人 市民科学研究室 〒113-0034 東京都文京区湯島 2-14-9 角田ビル2F
Tel: 03-5834-8328 Email: renraku@shiminkagaku.org

はじめに

　　長らくごぶさたしています。2006年の5月に第五福竜丸記念館でゴジラについて報告してから14年ちかくの年月が、過ぎましたが、お元気でしょうか。

　　東京で大石さんにお会いすることができたのは、占領史家の笹本征男さんが、大石さんの著書『ビキニ事件の真実』(みすず書房,2004)をもとにした『『ビキニ事件の真実』に学ぶ会』に参加するように促してくれたからでした。

　　その笹本さんも2010年に亡くなってしまい対話することはかなわなくなり無念というほかないのでありますが、大石さんと会わせてくれたことについて私は笹本さんに感謝しなければならないでしょう。また、この間、大石さんとメールでやりとりをさせていただくことができたのも幸運だったと思います。

1. 大石又七さんの危機意識

　　大石さんから2007年に北京大学のほうにいただいた年賀状には、「軍靴の音がヒタヒタと近づいてきていると思いませんか。政治が軍国主義一族の手に渡ってしまい心配です。太平洋戦争のあの悲惨な光景が頭をよぎります。今度は焼夷弾や爆弾など比較にならない核兵器ですから」と書いてありました。このころは第一次安倍政権のころでした。「戦後レジームからの脱却」をかかげるこの政権は、たしかに「軍国主義一族」といってよいでしょう。

　　岸信介の孫、安倍晋三は、その13年後も依然として権力をにぎって大手メディアを「アンダーコントロール」しています。福島原発が、アンダーコントロールされているのではなく大手メディアが、「アンダーコントロール」されているだけののはなしです。……

【続きは市民研HPにて】



　　市民科学、シチズンサイエンス(Citizen Science)は現在、市民がいろいろな度合いやいろいろなやり方で参加して営まれる、科学に関わる活動を幅広く指すものとなっています。特に欧州ではこの Citizen Science の活動が各地で立ち上がり大きな広がりを見せている状況をふまえて、ネットワークを築いてお互いをより発展させていこうとしたり、国や大学なども支援する仕組みを作ったり、という動きが活発です。

　　ここに紹介する冊子もそうした活動の中から生まれたものです。GEWISSというドイツにおける市民科学の強化を目的とした能力開発プログラムであり、プラットフォームでもある「市民が知識を創造するプロジェクト」(独語で Bürger schaffen Wissen – Wissen schafft Bürger, 英語で Citizens Create Knowledge – Knowledge Creates Citizens)に関わる多様なメンバーによって作成された、「Citizen Science とは何か」「それにどう取り組み、進めていけばいいか」を簡潔にまとめた実践的なガイドブックです。現在、ドイツ語版と英語版が出ており、市民科学研究室が訳した日本語版は、それらに次ぐものと言えます。

【ダウンロードは市民研HPにて】



　　国際放射線防護委員会(ICRP)は2019年6月に、2つの勧告関連文書(Pub.109&111)の改訂草案「大規模な原子力事故における人と環境の放射線防護」を公表しましたが、10月25日締め切りでなされた意見募集(パブコメ)には多数の意見(約300件)が日本語もしくは英語によって寄せられました。専門家ではない、一般の人たちからの意見が、放射線防護のあり方についてこれだけ多く寄せられたことは、いまだかつてなかった、と言えるかもしれません。

　　寄せられた意見のうちかなりの数のものが、英語で書かれ、かつ専門的な内容も含むものが多い、という事情を考えて、日本語としてすべてのパブコメを読むことができるようにと思い、市民科学研究室・低線量被曝研究会のメンバーが、全文を訳してみました。

　　文書はA3の大きさで、字は9ポイントにして、330ページになりましたが(PDFで6.3Mバイト)、以下からダウンロードできます。



▶当日の講座全体の概要や斎藤さんのプロフィール・関連著書などについては市民研ホームページに掲げた「実施報告」(『市民研通信』第57号2020年6月)をご覧ください。

　　私は最初に学校を出て新聞社に入り、といっても大きな新聞社ではなく、産経新聞系の『日本工業新聞』という産業専門紙で鉄鋼業界担当記者を3年ほどやった。そのあと今をときめく文春砲の『週刊文春』とか、『PRESIDENT』とかで記者や編集者をやって、32歳の時からだいたい30年フリーでやっている。

監視社会の問題に取り組み始めて

　　この監視の問題というのは確か1998年ごろ、当時講談社が出していた『VIEWS(ビューズ)』という雑誌の編集者に、「斎藤さん、プライバシーものでなんかやってください」という、ちょっと私にとっても前代未聞のいい加減な頼まれ方をされたのが最初である。「何をどうやればいいんですか」というと「それはあんたが考えて」と。それで新聞の検索なんかでプライバシーっていうのをひいてやったところが、まあたいがいはい、女子中学生が日記をお母さんに見られて、「プライバシーの侵害よ」って言ったとかね、そういうくだらない話ばかりだったので、これはどうしたものかなと思っているところにたまたま知ったのが当時、住基ネット、住民基本台帳ネットワークの話が政府部内で進んでいて、審議会があって、そこには新聞社の人がいっぱい参加していて、最初は反対してたんだけど、いつのまにかみんな賛成になっちゃったよねっていうのを見つけて、そのあたりから取材をし、翌99年には本も書き、ずっと監視社会の時代をおっかけている。

　　ただまあ、ここ何年かはネットの世界の話が中心になってきているので、私はテクニカルなことはよくわからないが、本質的には当時と基本的に変わっていないと思うのでお話ししていく。……

【続きは市民研HPにて】



第6章 物価変動と需給ギャップ

　　物価研究の歴史は長く、戦前からたくさんの研究がある。物価に対する関心は、貨幣の歴史とともにあり、中国では孟子に物価が「一物一価」ではないという記述がある。また、最古の文明であるメソポタミアのシュメル遺跡から出土した粘土版には、楔形文字で物価(銀との交換比率)が載っている。

　　最近、物価変動が小さくなったせいとか、物価が上がっていた高度経済成長期と比べて、物価の研究は非常に少ない。では、物価のメカニズムが解明できたのかというと、そうでもない。元日本銀行総裁の白川氏の著作を読むと、物価の理論はまだまだ完成していないという。

　　そこで、物価理論を発展させるための議論を展開したい。ただ、物価は需要と供給の問題と密接な関係があるので、第2章～第4章に述べたこととの延長に物価問題を取り上げる。そうでなければ、物価の問題を連載1回のページ数で説明するのは無理である。

　　個別商品の価格については、章を改めて説明する予定である。既存経済学が、ミクロ経済学と呼んでいる市場モデルであるが、そこでは、筆者が独自に考えた価格分布モデルを紹介する。

【参考文献】

『中国古代の貨幣 お金をめぐる人びとと暮らし』柿沼陽平 吉川弘文館 2015年

『文明の誕生 メソポタミア、ローマ、そして日本へ』小林登志子 中公新書2323 2015年

『中央銀行 セントラルバンカーが経験した39年』白川方明 東洋経済新報社 2018年

6ー1 価格調整と数量調整

物価は、多数の製品やサービスによって、必ずしも同じ割合で変動はしない。しかし、景気につれて、一斉に変動することも多い。物価は、第2章で論じた需給ギャップと同じ方向に変動する。つまり、需要に対して供給が足りなければ物価は上がり、供給に対して需要が足りなければ物価は下がる。「価格調整」である。ただし、通常は物価を変える前に、在庫や生産量の調整で需要に対応する。これを「数量調整」という。……

【続きは市民研HPにて】

上田:今日は暑い中、ようこそお越しくださいました。アイカムの創立50周年を記念した映画上映会、第14回を始めたいと思います。私は、進行役を務めますNPO法人市民科学研究室の上田です。よろしくお願いします。

　14回目といいましたが、2年半ほど前から、だいたい隔月で、体のいろんな臓器や器官、それから病気、かなり専門的な内容のレベルの高い上映会を続けてきましたが、幸い、いろんな方からご好評いただいて続けてることができました。今日は特別な企画で、総合的な視点から、生命とは何か、生きるとは何かをテーマにした大作を鑑賞いただけたらと思っています。

　そして、今日は特別のゲストとして、JT生命誌研究館の中村桂子さんをお招きしています。(拍手) 今は名誉館長をなさっていますが、本当に中村さんの構想で建てられた研究館と言ってもよいのではないかと思います。この中にも訪れた方がおられると思いますが、非常にユニークな研究館です。そういうこともご紹介いただきながら、映画を観終わったあと、少しお話いただいて、みなさんとも議論していきたいと思います。今日はじっくり、ゆっくりお楽しみいただければと思います。……

【続きは市民研HPにて】

アイカム50周年企画
「30の映画作品で探る”いのち”の今」第14回

「共に生きる
いのちの中の人間」

2020年9月5日（土）

JT生命誌研究館・名誉館長の
中村桂子さんを迎えて

